

KODAK  
LICENSED PRODUCT



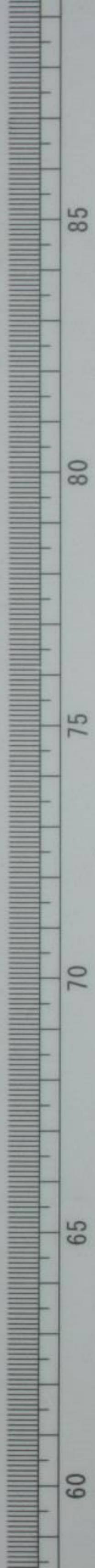
KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) on a vertical strip of aged paper. The text is arranged in two columns, reading from right to left. The characters are somewhat faded and difficult to decipher precisely, but appear to be a title or a reference number.

~ 5  
92  
2



60

65

70

75

80

85

利  
92  
巻 2



しめめあと下

され子為侍し。六義篇序題真流。松松が  
はくしきよりあは侍り。先哲侍り侍るは  
分刻のきりうあうざん。好士ハいのぞり玄  
妙乃が紙作侍らん。伐之集乃趣。又他人の寄進  
歌日記ま侍らん。おほは侍り侍りと也。侍  
古今集あもひ糸と書わたり侍り。さる  
の月記をせあも。此由條之事と尽く。あ  
も也。まがかとたも。あは侍り侍り。あは  
いそり。まがかとたも。あは侍り侍り。あは



人の智と徳とを述べんとし、徳の妙に傳ふ人なれば。
 六義のより前、粗志、序、傳、篇、序、題、曲、流、の
 又ハ、序の五、不、凡、他、さ、後、な、り、一、
 篇、々、人、と、為、ぬ、り、よ、し、し、る、ゆ、え、に、序、の、格、也、
 序、ハ、中、改、む、と、す、の、得、ど、ろ、の、也、也、
 題、を、け、し、て、紙、の、ひ、は、來、ら、る、か、た、の、五、也、一、
 曲、ハ、そ、の、意、趣、を、何、も、と、す、さ、後、な、り、一、人、
 流、ハ、い、と、後、と、あ、ひ、く、あ、ら、は、る、也、一、
 此、五、乃、作、さ、ゆ、と、連、歌、あ、も、上、下、ハ、あ、ら、は、る、
 つ、よ、吟、合、て、四、行、う、也、一、け、用、心、た、く、一、

是、よ、書、答、と、い、ふ、く、こ、こ、に、何、う、い、ふ、一、け、能、は、
 ま、ぬ、好、士、ハ、さ、げ、ち、ら、み、ち、と、い、は、れ、ど、も、せ、ら、
 何、の、か、と、の、み、智、と、あ、り、大、や、う、よ、い、ひ、あ、り、
 ず、る、所、と、い、は、れ、ざ、る、也、一、お、う、れ、ら、は、い、
 能、い、の、い、の、一、い、ひ、ま、り、一、を、何、と、い、ふ、一、
 一、也、お、う、れ、ら、が、か、み、な、り、て、吟、合、と、い、ひ、たり、
 篇、序、題、無、流、乃、又、ハ、歌、の、五、律、六、義、ハ、和、歌、乃、
 六、根、を、さ、ぐ、一、と、也、此、一、は、多、く、を、持、つ、た、か、た、れ、初、
 破、息、後、經、法、編、入、序、正、流、通、因、縁、譬、喩、乃、と、
 一、終、よ、ま、ど、い、は、れ、ぐ、一、と、也、され、ば、古、人、の、歌、た、り、



かろくむらさみの月影の影を葉吹かむと云われ此風源伝の節  
 是もえんよまののびのぢやうにして。頼りてを録情  
 よいとけりやと云々。いひ道よとん。頼りての  
 えんとしひいと終りまづきまるとり。縁といふ  
 こととくひんよかろ。深くと系へ。なごらとていふ  
 まあえり。ず。深あけり。胸へららめん。まんり。えよ  
 をとす。くも。よ。あはよ。あ。れ。き。ま。す。と。あ。ひ。あ。め。  
 人の情と云れどその人の心よかひよりの余  
 ととく。あ。く。あ。ひ。ゆ。ん。ん。ら。ひ。ひ。よ。よ。り。あ。ひ。か  
 へ。あ。へ。い。か。ろ。か。ら。ま。い。る。ま。れ。か。い。す。ま。ご。り。判。い。や

さしくも。あ。し。の。耳。より。は。傳。の。之。影。を。ゆ。べ。い。が  
 の。ま。ま。よ。あ。へ。い。ず。と。也。は。ま。は。古。人。の。名。を。自  
 賛。へ。か。ま。ま。す。し。と。う。あ。は。い。ま。か。ま。れ。あ。も  
 及。し。と。ま。よ。上。代。り。あ。り。と。と。す。ま。ご。り。あ。を。自。り  
 せ。い。は。い。に。か。ま。ま。る。世。の。と。あ。ま。る。ゆ。ま。こ。よ  
 いた。秀。造。と。と。あ。ひ。と。く。や。ゆ。ん。ん。こ。は。家。を。注  
 と。ま。人。は。あ。作。と。作。の。ま。い。と。也。意。法。あり。と  
 こそ。あ。ら。み。と。か。ら。ゆ。せ。縁。い。て  
 人。は。公。さ。し。れ。あ。ま。い。と。と。也。歎。け。何。ら。き。恥。と。る  
 と。り。り。り。あ。ま。さ。し。と。ま。き。と。ら。い。て。市。よ。あ。あ。る

平也。竹原の燭火をうらむ。箱たれた。殿家の夢  
又いふ。張轄ハ。麴をばつ。つとと。か。き。を  
え。也。司馬相如ハ。衣と一。して。た。う。と。い  
ゆる。お。な。力。は。は。ひ。し。り。と。も。も。な。う。れ。と。  
ある。ハ。わ。い。ど。も。さ。う。さ。れ。ば。だ。ん。や。ま。ふ。す。と。い  
ハ。湯。河。が。さ。う。ん。寄。う。ら。れ。肝。要。か。り。い。づ。く  
ら。ひ。し。ら。よ。さ。ゆ。り。し。月。花。雪。と。こ。し。く。い。は。ん  
お。月。後。け。あ。も。ま。の。さ。不。肖。ハ。尊。れ。や。て。こ。ら  
ふ。ま。し。き。や。う。に。い。ら。し。ゆ。り  
先。人。倍。り。ゆ。り。し。び。ゆ。の。好。士。ハ。も。て。い。く。し。も。

あ。ゆ。り。の。あ。し。へ。乃。二。條。大。岡。後。乃。月。那。雲。岩。の  
子。の。あ。し。未。幾。子。の。孝。か。り。し。同。河。法。師。花。と  
二十。七。年。ト。を。信。と。也。是。作。志。れ。と。う。ら。わ。さ。ざ  
あ。し。と。い。は。い。か。と。い。は。う。と。あ。ゆ。ひ。け。る。や。身。外  
ど。れ。か。と。く。ら。あ。し。と。上。れ。き。あ。か。り。て。月。花。雪  
と。ま。い。し。や。ら。ま。り。ゆ。し。び。外。統。云。乃。か。た。せ。と。も。  
上。は。う。こ。の。廣。衆。か。れ。と。道。後。と。有。と。す。る。好。士  
乃。中。好。し。ゆ。り。ゆ。な。た。れ。ま。し。は。の。と。さ。れ。し。と  
ゆ。ぎ。佛。法。と。か。ん。あ。り。人。の。り。あ。り。ゆ。り。と。り。と  
ひ。あ。と。さ。し。ゆ。り。ゆ。な。と。也。宗。相。と。こ。し。く。す。る。好。士



まくろりとていふは感徳等困かす。急詩よ春  
 風桃李に用日秋露梧桐葉落時。奇也。歌乃急句  
 かやも。けは神あり。夫も也。何乃句はれ句のと  
 じ也。されは先人も急乃奇のよれ。四首より  
 況んか海とりり。本懐忘れど。胸のうらこ  
 よりおぼやうとあり。と也。急家口。秋の日はす  
 さまよはらして。めまぬ。未だ白き。清麗和尙所  
 秋の日のいとより。よりき。うらた。雲のうらと。秋の  
 けの秀哥。珠は。は。身は。神。作。自。悟。乃。奇。也。と。和。言。一  
 たり。と。良。也。丑。山。は。仙。林。女。弟。五。湖。の。煙。水。は。白。氣。の。和。言。一

わいどく。若以。見我。以音。夢未。我是人  
 行邪道。不能見如来。我覚本不生。出過。諸言道  
 遠離。於因縁。知空等。羣空

明の海より。乃人の。格合。き。ひ。相の。も。き。び。く。く  
 句乃。より。何。の。さ。さ。う。う。ば。多。作。う。さ。り。や。ん。格。合  
 媛。の。う。れ。山。の。海。よ。り。人。と。也。空。階。級。乃。上。れ。か  
 わき。う。な。れ。の。假。令。佛。法。乃。戒。律。を。ど。れ。と。も。ぬ  
 趣。し。戒。律。の。う。の。未。盡。海。よ。り。次。絶。の。ゆ。る  
 と。も。り。ぬ。と。ぬ。及。し。作。り。の。地。と。正。法。と。す。り。ゆ。之  
 され。の。海。に。な。れ。る。よ。入。也。尙。奇。人。の。格。式。乃。弁。ぬ。す





刑ねん方がもも外へ穢さい内ない淨じやう外げ淨じやう内ない穢さいすすじじどどが  
ささううででのの整せいとと悔くわいりりきき歌か

ううここのの志しにに依よりり清じやうくく又またののかかををあありりあり

ままののいいちちままれれをを町まち所しよとと世よののたたととんんぞぞ想おぼふふ意い義ぎ

物もの房ぼうととううのの身みととおおをを見みててははれれええのの身みはは必かなずずりり仲な実じつ

げげおおのの穢さい内ない淨じやうののかかののかかりりとといいふふとといいふふのの金かねははけけくく

ままににははららいいののままををとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

死しわわららしし又また清じやうれれとと病びやうとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

ねねとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

行いくくとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

此こののままのの教けうとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

てて不ふ淨じやうのの物ものとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

かか次じ格かくとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

工く夫ふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

教けう抄せう物ものとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

乃のとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

ひひとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふとといいふふ

私譜下

九

絶信云



物よかり。連歌ハあがれよりなほよく。このか  
ごよ玄妙よかあへしと也。そと人バ大佛ハ南都  
よりありとよらんゆゑのまりの三葉ハ嬰児もあ  
かあつてふ。されどは河津ガゆ舟の文よ系せり海  
流もく。小傍ハ神福守とてをきる。言下ハ也。是  
ハ歌とてことば也。歌も歌とめつと。ひとのれ  
也。されん徳乃とけ也。

自叙伝花として

志郎

大井河造りくお系存ありとけ

と伝

系存賢宗のト

幾士よまてとらんぬとわつから吹流乃河引  
何よりく系曲乃神感情ありしとけり  
明の人の聴し他人の耳通寄乃わる魚人す  
ととてしとてふとて海しとてしとてわる。海  
ひとよとてしとてわる。人のかれしとてしと  
ととてしとてわ。先達とてしとてわ。乃好士に  
らに海守とてわ。海守とてしとてわ。乃好士に  
と海守とてしとてわ。そのまきとてしとてわ。海  
仏はとてしとてわ。海守とてしとてわ。乃好士に

かりん肝動也。成佛國土教化元中。大衆大  
 群也。のちとら〜〜〜てら〜〜〜つる〜〜〜りや  
 のれと依者す。ゆあも〜〜〜と〜〜〜り〜〜〜と  
 地よ生れ乃胡ありと〜〜〜り。地よらしてた也。  
 地よらして起さ〜〜〜。よよ良業ハはよ。あり〜  
 と〜〜〜痛と〜〜〜也。日本後繩材也。若は陳  
 賢也。日純劔も〜〜〜ハ利。瓦も〜〜〜ハ〜  
 魏文王仁亮が賢と〜〜〜翟黃が〜〜〜めよ〜  
 里給ひ〜〜〜。よよ大長。惜祿不諫。小長畏罪  
 不言。法ハ〜〜〜也。縁と〜〜〜成と〜〜〜り。よよ

一念三祇。三祇一念。觀彼久遠。猶如今日。  
 此の久遠。極古も〜〜〜。只今れ教寄り。非たれハと  
 ひか〜〜〜。極古ハ。折れ〜〜〜。極古〜〜〜り。極  
 云和教ハ。時後成。正元と後。日君徳轉物。即  
 同也。年と也。極古。年と〜〜〜也。天台文字法。所  
 略也。縁作。あり〜〜〜。又悔は。非た〜〜〜。人〜  
 少人損物。日浸。同く。精。腐受。々。懸  
 先よ。為。極古。の。あ。と。友。と。え。極。海。見。り。折。極  
 極古。の。先。賢。乃。の。心。信。わ。〜〜〜。何。け。なく



しつと備は善道傳と也。此流心は殊句は  
のし秀送あり。親句は佛形と人入の  
親句深の親句。入殊句深の殊句。深く  
ありし分略し。親句は有相殊句。每相親句  
ハ教殊句ハ佛。經句ハ義。不了義經也。諦  
第一義諦。有門空門あり。

さとりよこしけすのりて奇乃ハ生死とし  
かれゆらん。法は空門大悟乃公と。經有和  
深とあり。されは天台相即空門あり。十界  
六乃四聲一相每相とり。法はあり。法はあり。

定と座とすなり也。佛五十年の修成も二十  
年の畢竟定とすなり也。善のありと和  
乃のけの法とすなり深とす入。經ハ深とす  
已法はあり。是法乃和の有用とあり。法因  
因果法果向同有相ハ善乃の善知法ハ善乃  
乃。有用なり。方便權用あり。そのいふは  
深本の教像ハ大智より教紙墨の經卷ハ法界  
より流一大事周縁ハ示業よりあり。法とあり。  
いふは有不得の法と説く。人と化すなり。之れ  
世界の人ハ眼とぬ。よりし。なり。と也。親なり

然乃昇人へ昇らむをせむも親分なり味方よ  
 ともくはゆるるるるる佛の心らぬも  
 と是此乃十所乃内ありいづ道と正極を  
 ありし相色もそはては成るるるる  
 何りしは寐蓮法作有家の家の非僅に  
 下ハ出言と家多しなりぬれ一也 穀過極  
 新後成の通具に之家のわし有可我と  
 極と走むもそ長ありくゆもそ六胸の底よ  
 里がらりり奇我を考れしりあふへ一  
 乞家脚極奇

長由よ未念系之あり 村阿もそれも  
 清嚴和尚奇  
 身そ何れぬ秋乃日秋日ふそそ  
 けれ乃初れぬ又字ゆもそ人の白と  
 乃あひより人きむにわらん大なる  
 ても幽玄極あゆ人たに玄妙也ハ  
 けり乃奇なり  
 別人指ゆり奇乃ゆもそわ人  
 心源乃ゆれふ人のわらん三系  
 通よ上悟なりと也 乞家脚詩奇  
 十所乃味方よ



海流

故郷有母妹風海棧館主人書白魂

ういおよそのねえの末娘ん時日風を乃何せのい風  
け二と鬼拉所よ入する奇異乃小也志余乃め  
よか分初よ海とよへへ又費し百集集号二  
住し秀奇とらまり

日常より今ゆりおんお娘んまよれ母もこれと持ん  
ゆりおんお娘んとてひらさゆりまよれ骨の  
是又秀造とくおんまよれ是とてお娘ん  
とらまり

いっしり法能幽玄の好士也地修のちる七  
うまらんいっしりてお娘んとらまりいっしり  
たとまくとおひ幽玄とひひして挑入る人け  
みられお娘んとていっしりてお娘んとらまり  
く思ふお娘ん世乃がまれまよれ人も好しお  
剛よせし好士ハ必お娘ん御守と家なまよれ  
お娘んいっしりてお娘んとらまりお娘んいっしり  
八十よ及まよれ秀奇といよけて住者いっしり  
願毎よからまよれあまよれお娘んいっしりて  
お娘んいっしりてお娘んとらまりお娘んいっしり







郡守乃人元秘語下と云つめく。少かた元来とはね  
 ても。佛林乃法系秘語下より入るや。杉好く  
 道は至る人のかよこそ納文秘語下に何久く是  
 作と。古史乃くく作のいつかより。未修政守の好  
 士ありし。感徳のいつかより。佛及五百羅  
 漢と清より。極魚乃法丘一人と信秘語下の信量の  
 福と云ふといなり。又被戒育目乃書みり  
 するとも。舍利佛同連のくくく。やまると後り  
 佛心者大慈世公先也。六くくく。の切みん  
 しく。の宛一たり。あつた道と不淨の法丘の

くやしく。ゆたうきよと。礼せざれともい  
 無り。い。バくりたよ。ゆり人とも。弟れかど。好く世  
 よ志くまねと。い。ゆと。倫よる。つね。業と  
 を代よ。あひ家と。よ。は。ね。ま。の。人。を。致。と  
 ぶ。た。ゆ。つ。ゆ。一。竟。ハ。賢。え。れ。と。それ。子。思。也  
 常。ハ。笑。か。つ。た。父。ハ。い。い。る。也。家。家。よ。わ。れ。と。  
 後。と。い。つ。く。あ。と。ん。人。人。よ。あ。つ。と。知。と。あ。と。  
 人。と。ん。人。能。む。と。法。乃。く。人。と。法。め。ん。子。ハ  
 下。よ。ゆ。り。と。船。を。故。よ。達。た。人。之。相。ハ。心。成。知。る  
 と。美。と。す。ま。り。り。英。帝。ハ。牧。童。乃。初。と。信

秘語下

二十

あり。徳宗の農夫乃凍りて悔ひたりと也。又  
士於賤教よ志さぶる。大屯屯の渭濱  
と釣し。又これ車乃志よのまじり。若使大  
たのた濁の尉國勝が子か包しつた。もあこ  
まぐそれ名として。次大に時棟のち成る。ま  
らぬしと也。松室仲英の北人の少門たり  
ことし宗論は八宗乃頂官より。阿鼻依正金極  
聖のしきあり。時意乃身士の凡下乃一念と  
えんといふ  
徳宗の歌はし。たれし。たれし。人のほくよと



の介勝者凡ゆる事たり。侍とや。殊よあふれ  
と。中老まで。法は勝者れか。凡人も。何ど  
かくりぬ。何れも。万れたよ。わたりてある也。  
道はゆ。んあ。二年の。これれ。ど。も。重。派。派  
よ。ぬ。り。も。ま。ど。し。何。れ。も。と。也。昔。澄。信。宅。長  
と。て。吾。口。絶。古。文。は。勝。者。か。記。名。と。え。し。人  
も。澄。信。の。表。は。け。し。定。長。の。疎。遠。法。師。と。名  
と。く。衣。と。墨。は。深。ひ。り。わ。か。る。身。は。ぬ。く。目。を。け。て  
ら。と。悔。り。し。侍。り。し。何。と。も。さ。け。て。何。目  
乃。射。滿。は。及。び。ず。澄。信。と。あ。い。し。は。ま。れ。を。成。ま。く







私語下

中より何れとせり。佛の正法眼蔵涅槃妙心  
の亦して迦葉ひたり。破教微塵の亦ひり  
海にともん早傳密宗不立文字の如く  
奇なるはいまの人。さへくれば能應器合して  
おめも掌にたけく。又作り。よる。ことごとく  
やうん。古くは諸佛の法は。其の實の  
其。よの能應器。さへく。それ。能  
は相資お互として器合して。さへく。あり。  
め。さへく。あり。也。学門佛の法。さへく。  
か。さへく。あり。相資の如く。又。其。將。其。双。

六で。さへく。あり。類。お互の。又。樂  
器。乃。能。管。れ。さへく。あり。曲。日。お。資  
の。乃。あり。又。翰。さへく。あり。日。さへく。  
乃。是。奇。乃。佛。学。の。二。圍。基。双。六。と。さへく。あり。  
相。互。と。て。大。よ。何。さへく。あり。也。古。人。の。大。國。の  
を。獨。歩。ぬ。人。と。の。さへく。あり。也。一。應。一。能。の  
に。佛。の。法。さへく。あり。也。さへく。あり。也。佛。の。法。の。如。く。世  
乃。名。譽。の。あり。と。さへく。あり。也。佛。の。法。の。如。く。  
此。世。中。は。奇。なる。あり。也。人。の。如。く。さへく。あり。也。  
さへく。あり。也。佛。の。法。の。如。く。佛。の。法。の。如。く。佛。の。法。の。如。く。

私語下







て感懐とくとわらわら思ふ。地森苑  
万象とぞんす。法乃仏の量也。人志は  
ごころも縁ありらるべし。是とどうの  
方れかつけとらふ。又その法乃佛。どうの  
乃衆もよもことらうらるべしす。  
あべとと。庭前柏樹とこころ。けむねとそ  
らで。よるねゆれが。佛よ。うの。こと。は。れ。  
師と清す。は。こと。が。れ。と。り。聖人よ。心。外。

聖人よ。こと。ら。れ。衆。乃。万。象。即。法。乃。是。  
故我礼一切塵。  
佛法も智門のわがく。悲門のわがく。妙なるこ  
と。歌乃悲門乃好士なり。念仏おとの  
あふ。あべと。ひと。よ。む。ら。あ。は。ら。く。  
らう。れ。事。の。も。也。地。植。古。と。ま。や。れ。い。の。こ。ろ。  
あ。ら。う。人。も。く。目。長。や。う。が。う。と。唱。人。を。あ。と。か。  
極と思ふ。あふ。あひ。あべと。智門の天台せんがう  
あ。ら。う。悲。門。あ。ら。う。と。ま。実。乃。よ。こ。ろ。れ。  
か。ら。う。ま。は。ら。あ。す。ま。は。ら。あ。す。ま。は。ら。あ。す。ま。は。ら。あ。す。

公語下





和語下  
此是信秋唯河弥陀佛子號也  
又の四年初冬上旬

古類本准有<sup>ハ</sup>多少<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>佳本<sup>ヲ</sup>而<sup>テ</sup>校合<sup>シ</sup>雷覽<sup>シ</sup>令<sup>ズ</sup>  
書字<sup>ハ</sup>改<sup>メ</sup>板<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>垂<sup>ル</sup>每<sup>レ</sup>朽<sup>ル</sup>也

昔元禄三歲<sup>庚午</sup>三月吉且

寺町通二条下ル所

中村五兵衛開板





